

碩心

可 行 認 發 會 風 学 院 吟 詩 日 本 人 法 团 社 神 奈 川 碩 心 會

| | | | | | | | | |
|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------|----------|----------|----------|-----------------------|-------------|
| 4年 返葉大 (合計) | 3月 地区 船地区 (454) | 現在 12 (454) | 會員 158 (454) | 4年 根中 | 3月 岸村 | 号行 編集 | (236号) 者 岳 岳 | 萃 者 愛 |
|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------|----------|----------|----------|-----------------------|-------------|

趣味は生涯の道連れに

若葉支部 佐々木邦山

「母さん、なぜ一番綺麗なお花を切って活けないの？」幼い日、母の生け花に対しての初めての疑問でした。

四季折々、庭の陰にそっと咲く花を捜しては楽しげに活けていた母：「よくくらん、陰に咲くお花は誰にも見られないで可愛想と思わない？」と優しく笑った母の顔。私はその日から小さな手に花鋏を握り、花を伴っての半世紀でした。

それは、もう十数年も昔日となりました。当時の華道界は年毎に華やかさを増し、華展会場では、名木を惜しげもなく使った作品も数多く、たゞ豪華さを競うかの様に私には映りました。私はその雰囲気、次第に馴染めなくなり、神武寺の山を歩いて枯木を捜し、枯れた芒の葉の流れに心を奪われました。そして陰に咲いていたホトトギスを頂いての華展出品。

その作品の前に永い間立ち尽くしておいで、の御婦人がいらして、堪りかねて伺いますと、

「実は亡夫の七回忌が近くなり、供養の為に床の間に観音様の軸を掛けています。その横にこの生花をと思えますと離れられません」と。余りの勿体なさと言葉もなく、これ以上の何を望むのかと自身に問いつ、華道界から遠ざかった私でした。

けれども永年お世話になった華道界との別れの寂しさ、むなしさは心身を痛め、次々の手術となり、病床の日々を送りました。

その折でした。詩吟大好きとおっしゃる付添の方が小さな声で「七重八重花は咲けども」と忘れもしない道灌養を借るの図に題すッを聞かせて下さいました。その山吹の花は、光明となって吟道へと導いてくれました。

それからの四年間、千葉先生のご熱意、先輩皆々様の温かい和と輪の中で勉強させて頂き、お陰様で昨秋、山号を頂くことが出来ました。いいえ、山の麓にやっと辿り着かせて頂きました。これからは一歩、一歩、歩を高くして、又、亡き母への懺悔も含めて、楽しい精進をと念じております。

「趣味は終生止めたらアカン」これは苦い体験を徹しての、弱い自心への応援でもあります。

碩心会55周年記念吟道大会

プログラム編成に係る
確認 協議

3月2日(月)午後7時より、六代御前社務所に於て、各責任者により協議されました。

(1) 挨拶文・顔写真

会長・葉山町長・総本部理事長
県本部長

(2) 開会のことば：加藤岳相

(3) 閉会のことば：千葉岳関

式典内容
碩心会の詩合吟・大会々々長挨拶
来賓祝辞・感謝状・表彰状並びに記念品贈呈・花束贈呈・許証授与

(4) 表紙文字取り扱い

(5) 構成吟のナレーターの設定

(6) 役員の選定(後記掲載)

(7) プログラム編成メンバー

* 功労者(在会25年以上) 高齢者(満80才以上) 構成吟出吟メンバー他次号掲載の予定
(大会役員決定)

大会々々長 根岸岳萃

大会副会長 加藤岳相

| 大会顧問 | 総括 | 受付(来賓) | 受付(会員) | 進行 | 連絡 | 会場 | 接待・弁当 懇親会 | 会計 | 記録 | 救護 |
|----------------------------------|-------------|---|--|--|------------------------------|--|---|-------------------------------|------------------|----|
| 三井岳壠 沼田岳雷 井沢岳潮 小峰岳海 森田暁岳 秋元梁岳 | ◎加藤岳洵◎宇都宮徳岳 | ◎中村岳愛◎鈴木孝岳 山口夕岳 杉山雪岳 綾部秋岳 佐藤湧岳 白井麗岳 関水滄岳 松崎艶風 | ◎村田滯岳◎渡辺秀岳 黒崎李岳 石渡桂岳 佐久間爽岳石川豊岳 寺脇宇岳 土井竹風 | ◎千葉岳関◎鈴木萃岳 上村象岳 立沢御岳 小形雄岳 栗山文風 松井正風 菊池祐風 | ◎中村岳郵◎渡辺誠岳 加藤漢岳 鈴木英風 西川幸風 | ◎竹石岳泓◎松野宝岳 清水耀岳 一柳道岳 吉原慎風 黒崎幸風 加藤健風 鈴木要山 | ◎沼田義岳◎木村松岳 岩崎恵岳 三留岑岳 笠原珠岳 綱川晃岳 千葉美岳 水上昌風 金子訓風 | ◎矢嶋悦岳◎西村昌岳 高井定風 ◎白井寿岳◎荒木生岳 | ◎守谷崇岳◎伊藤峰岳 (64名) | |

(◎) 印責任者◎印補佐)

段・位一覽表

| (段・位) | (雅号) | (年限) | 許 含 | 証 費 | 料 税 | |
|------------------------------|--|-------|---------------|--------|--------|--|
| 初二初三四五六七八皆九十 段段段段段段段段段段段段 | し 号 な 泉 山 号 風 号 下位 岳 上位 岳 | 6ケ月以上 | 2,024,- | | | |
| | | 6ケ月以上 | 3,036,- | | | |
| | | 1ケ年以上 | 5,060,- | | | |
| | | 2ケ年以上 | 10,120,- | | | |
| | | 3ケ年以上 | 20,240,- | | | |
| | | 4ケ年以上 | 30,360,- | | | |
| | | | 後後後後後後後後後後後後 | | | |
| | | | 証証証証証証証証証証証証 | | | |
| | | | 会受受受受受受受受受受受 | | | |
| | | | 段段段段段段段段段段段段 | | | |
| | | | 入初二初三四五六七八皆九十 | | | |

二月に皆伝十段・三月に初段八段までの春季審査会を終え、合格おめでとうございました。皆さんからの要望により段・位一覽表を再掲載いたしますので参考までに。

梅辺 歩月 江間細香

梅月嬋娟として夜を奈何んせん

微吟して歩を移して横斜を踏む

満身の疎影清きこと水の如し

但だ幽香を認めて花を見ず

(訳 詩)

うるわしく 梅照らす月

いねがてに 詩(うた) 口ずさみ

そぞろ行けば

踏む枝の 影 いとさやか

花見えず ただ香(か)に におう

いねがてに 寝られなくて
寝たくないのです

(江島細香) (一七八九〜一八六三)

江戸末期の女性詩人。大垣の藩医江馬蘭齋の娘。頼山陽に詩を学んだ。山陽の愛人で彼に尽くし、終生独身を通じた。

(詩歌春秋より)

水戸借楽園を尋ねて

山口夕岳

三月の素晴らしい天候に恵まれた一日、気の合った友達三人と、急に思い立って水戸の借楽園に出かけました。梅はちょうど見頃の五分咲き。名園の一つに数えられる公園だけに、三千本といわれる白梅に、チラホラと紅梅も交って、それは見事な眺めで、馥郁とした甘い香りが風に乗って流れきてうっとりとする。

借楽園は、水戸第九代藩主徳川斉昭公が、衆と偕に楽しむの意からつけられたと言うことです。先ず義烈館に入る。水戸光圀公、斉昭公のおくり名からとったということです。館の入口に農民の銅像があり、碑には、

朝な夕な飯くふことに忘れじな

めぐまぬ民にめぐらるる身は、

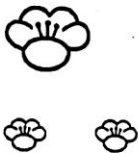
の歌が記されていました。飽食の現今、胸にグサツとくるものがありました。中には数々の遺品が飾られており、「正気の歌」で知られる藤田東湖の具足や、書などもあり、陳列され、斉昭公の重臣として、藩政改革など、

父幽谷と共に、水戸学に残した足蹟の大きさがうかがえました。

次で好文亭へと回る。好文とは、普の武帝の故事により、梅の別名を好文と呼び、学問に親しめば梅が開き、学問を廃すれば梅の花が開かなかつた」という中国の故事に基づいて名付けたということです。教本の二巻に「講道館にて梅花を賞す」の漢詩がありますので、皆様よくおわかりの事と思います。千波湖を借景に、見晴らしのよい高台に建つ三階建ての建物で、昭和二十年代に戦災により焼失したそうですが、三十年から三年を費やして復元されたとのこと。

亭内の各室は、無装飾の素雅、優美で、「水戸さむらい」の風格がしみ出ている感じがいたしました。三階の一室からの遠近、山水の眺めは斉昭公の誇りとしたとの事です。

日帰りの旅でしたが、充分に梅に満足し、藤田東湖の偉大さにも触れることが出来、教えられることいっぱい、疲れることもなく帰宅いたしました。



練吟

メモ

漢詩テスト

○ 山中問答 李 白

余に問う何の意あつて碧山に棲むと笑うて答えず心自ら閑なり

桃花流水杳然として去る

別に天地の人間に非ざる有り

(通釈は教本二・74参照のこと)

○「語釈」(教本にないので参考までに)

◇山中問答 山中隱居の楽しみを自問自答した詩。

◇碧山に棲む 人里離れたみどりの山に棲む。住むは人、棲むは鳥。詩人は用字に心をつかう。

◇閑 ひま、しずか。◇桃花 流水 流水の上を桃の花びらが流れてゆく。

◇杳然 はるかなるさま。◇人間に非ず 俗世間からかけはなれた別世界。

◇教本を見る時、山、閑、間と韻をふんでいるので七言絶句のようであるが、平仄が合っていないので絶句ではなく「七言古詩」である。指導者は留意のこと。

○問題 (大学入試問題集から抜く)

次の問いの正しいものに○をつけなさい。

(1) 余に問うたのは誰か。

(2) 余は誰か。

(3) 桃花流水は、山に棲む鳥の鳴き声か。

(4) 桃花流水は、山に棲む鳥の糞か。

(5) 桃花流水は、山に棲む鳥の羽か。

(6) 桃花流水は、山に棲む鳥の毛か。

1 或る人 2 友人 3 主人 4 自分の子

(2) なぜ笑って答えないのか。

1 答えるのがめんどうだから

2 相手が気に入らないから

3 自分の気持は普通の人にときあかし難いから。

いから。

(3) 「桃花流水杳然として去る」とはどんな景色か。

1 春の野辺の美しい景色 2 初めて春になったよろこび

3 仙郷の自然の奥深い趣 4 田舎ののどかな景色

(4) 天地とは他の語で言えば何か。

1 上下 2 天と地と 3 造化 4 世界

(5) 人間とは他の語で言えば何か。

1 人 2 世界 3 人と人の関係

(6) 作者はこの詩で何を詠じているのか。

1 春の自然の美しさ 2 俗界を離れて仙人となること

3 人間の自由な生活をたたえること 4 俗世間にわずらわれない自然生活のたのしみ

× × ×

○「解答」(答を出してから照合のこと)

(1) 1 (4でもよい) (2) 3 (3) 3 (4) 4

(5) 2 (6) 4 (全問正解が優)

俳句

大船A 山口夕岳

雛菓子ひなこの鯛うなぎそりかえる紅の色

残る鴨水魚かひの輝きらき人を恋ふ

犬いぬふぐりみつけし谷戸の大藁屋わらや

大船A 田中絵泉

三月のつらら光らせ立石寺

すべり易き山寺の礎春の雪

山寺や芭蕉句碑にも雪残り

地卵ぢたまごをみやげに訪ひぬ木の芽雨

稻荷社に菓子干からびて地虫出つ

(教本目次の誤り)

教本第二巻87頁の「四詩」につき、一會員

の方から、本文の吟題は「四詩」で目次は「

四詩」になっているとの御指適がありました

目次の「四詩」は誤りと認めます。

(訂正)

二月号入会の 酒井和子さん電話番号を

○四六八―七五―二七二三に

(移籍)

37 鈴木容岳 逗子Aより逗子B支部へ

(退会)

315 芳谷六山 (逗子B) 368 松岡鉄山 (逗子B)